

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	交流会
タイトル	訪問看護師交流会 多死社会に向けて在宅医療の鍵となる訪問看護を普及させるためには？ ～情報共有や当番体制、連携のシステムを確立し、スタッフが疲弊せずにやりがいを持てる方法を考えよう～
日時	平成 25 年 3 月 30 日 13 : 30～15 : 00
会場	真珠の間 B
演者	㈱ケアーズ白十字訪問看護ステーション 代表取締役・統括所長 秋山正子様、訪問看護ステーション東宇和 所長・小川口淳子様、医療法人聖愛会 ボランティアコーディネーター・森菊子様、医療法人ゆいの森 訪問看護ステーションコスモス 古川良三
企画趣旨	<p>(企画意図)</p> <p>今、日本では、世界のどの国も経験したことがないスピードで高齢化が進んでいます。出生者数より死亡者数が上回り、亡くなる人がかつてない数で増え続けていく多死社会を迎えるにあたり、医療はどう対応すべきなのでしょうか？</p> <p>世界一の高齢化率、世界一の病院看取り率、世界一の胃瘻造設率を誇る日本。世界に誇る国民皆保険制度に守られ、世界でもトップレベルの医療を国民誰もが平等に受けられる日本。それでも、高齢化の進展により、年少人口層や生産人口層、前期高齢者層をいくら治して死亡を防いでも、後期高齢者層避けられない死亡が増え続けていくことになり、現在の年間死亡者数約 120 万人が 2030 年には約 170 万人まで増える多死社会となるのです。これが高齢社会から多死社会の到来です。</p> <p>治そうとしても治せない病気、避けられない老化や死が増えていくこれからの時代に対応していくのは、まさに治せない障害や治せない老化や死に向き合っただけで対応してきた在宅医療ではないのでしょうか？その在宅医療の鍵となるのはまさに訪問看護です。訪問看護の普及なくして、在宅医療の普及はないのです。訪問看護を普及するためには何が必要となるのかをこの訪問看護師交流会では皆さんと一緒に考えたいと思っています。</p> <p>(概要等)</p> <p>平成 23 年 4 月 1 日現在の日本の看護ステーション数は 6,151 ケ所で微増、愛媛県の訪問看護ステーションは 87 ケ所で微減しており、思ったように増えていないのが実情です。なかでも、訪問看護ステーションの規模は、常勤 2～5 人ぎりぎり運営している所など、小規模の訪問看護ステーションがほとんどを占めています。そして、経営的にも厳しい事業所が多く、日中には訪問看護の件数を詰め込んで、夜間や休日も少人数で 24 時間対応しているという過</p>

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

酷な環境での事業所も多いと聞いています。スタッフが疲弊せずにやりがいの持てる職場に訪問看護ステーションになるためには、一定の大規模化（常勤5人以上）が必要で、そのためには情報の共有システムが必要です。訪問看護ステーションは一般に電子カルテ等のIT化が遅れており、情報の共有が進んでいないと聞いています。訪問看護ステーションの大規模化には積極的な情報の共有と方針の統一が不可欠であり、その方法についても皆様と議論したいと考えています。

また、重度患者の出入りは、訪問看護ステーションにとっても業務負担や経営上のリスクを伴います。せっかく、診療報酬上で、複数の看護ステーションがかかわることができる制度が構築されているにもかかわらず、連携が進んでいかないのはなぜなのか？また、医療保険の訪問看護がうまく利用されていないのはなぜなのか？主治医やケアマネージャーとうまく連携する方法など、訪問看護ステーションの普及に必要な課題について皆様と議論し、今後の活動に役立てるような交流ができれば幸いです。どうぞ、皆様、第15回日本在宅医学会訪問看護師交流会にお越しくください。